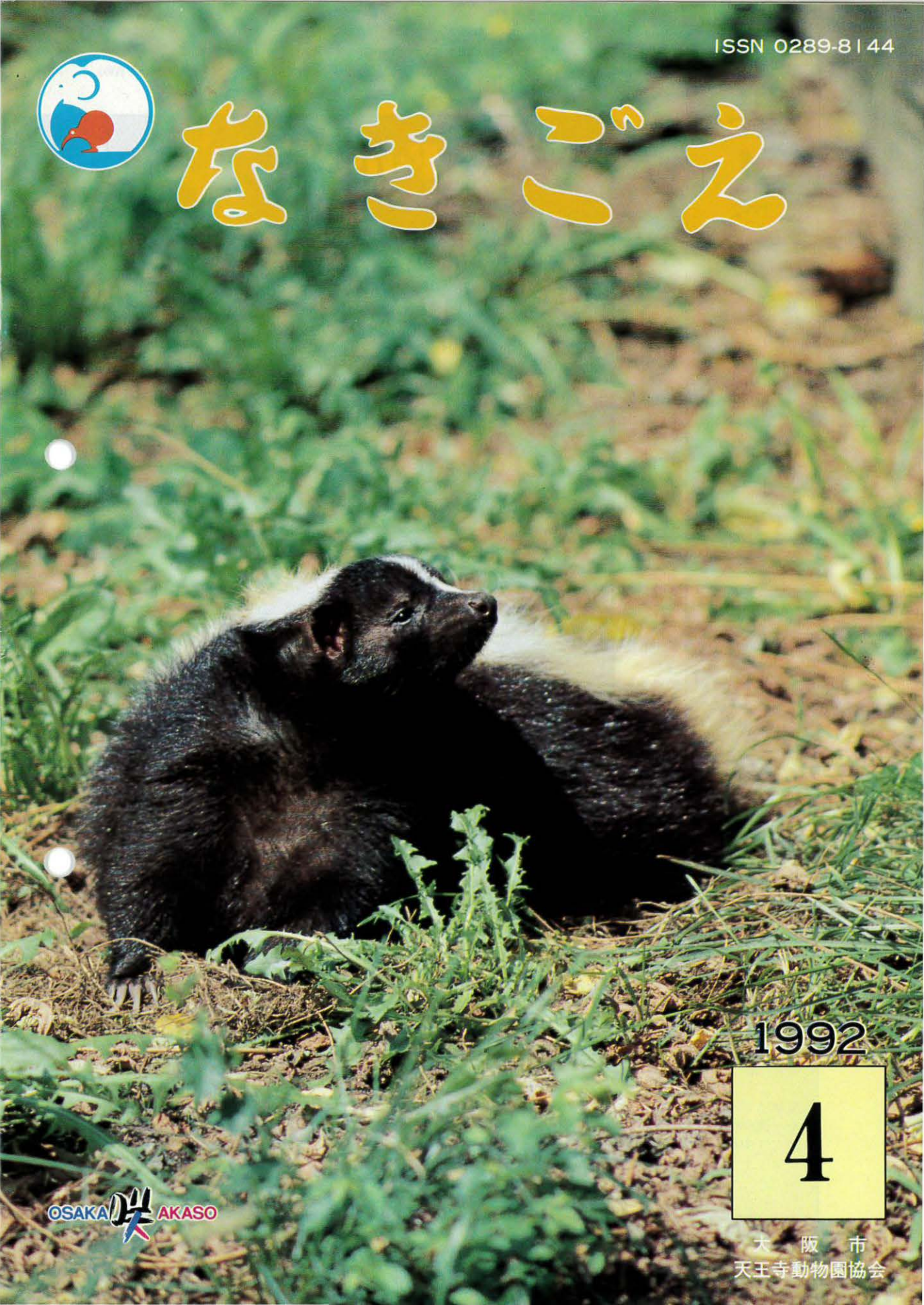




なきごえ



1992

4



New Face

(撮影：早川 篤)

もくじ

- 2 NEW FACE 袋からこんにちは
- 3 動物と私 悲劇の海獣ニホンアシカ
カバーウォッチング シマスカンク
- 4 チーター親子の悲劇
- 6 春になればキジ舎は……
- 8 グラフZOO 猛禽類
- 10 ケンちゃんの好きやねん動物園
- 11 ZOO DIARY

カバーウォッチング

“シマスカンク”ネコ目 イタチ科

(*Mephitis mephitis*)

スカンクは肛門腺から強烈な臭いの分泌液を出すことで有名ですが、動物園のものは手術で肛門腺を取ってあるので安心です。

(撮影：榎原安昭)

||||| 動物と私 |||||

悲劇の海獣ニホンアシカ

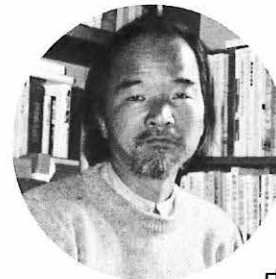
広義のアシカはガラパゴス諸島、北米西岸、日本沿岸に分布し、地理的にははっきり隔離された三つの系統から構成されています。ここではそれらをガラパゴスアシカ、カリフォルニアアシカ、ニホンアシカと呼ぶことにしますが、互いに亜種の関係にあると考えられています。

1991年、環境庁によってニホンアシカの事実上の絶滅宣言がなされました。絶えたことが確かであれば、ニホンオオカミ、エゾオオカミなどに次いでわが国5番目の絶滅哺乳類ということになります。

— ホンアシカは朝鮮半島南東岸の無人島に生き残っているのではないか、一縷の望みをもつ人もいます。私もそう願っている一人ですが、この50年間、生存を証明するような信頼できる情報は何も得られていません。

少なくとも明治時代の中期から後期までは、ニホンアシカは日本の沿岸に確かに生息していました。伊豆諸島の神津島や三宅島近海に散在する岩礁小島や、日本海の竹島といった孤島で繁殖し、能登半島沖の七ツ島も繁殖地の一つになっていたと推定できますが、これらの島々からことごとくアシカは消えてしまったと考えられます。乱獲が大きな原因であったと私は思っています。

最後の生息地となった竹島でも、明治36年(1903)以降、主に油と皮革を取るために組織的なアシカ



中村 一恵さん

(神奈川県立博物館専門学芸員)

猟が行われました。田村清三郎氏の資料によりますと、明治37年から44年までの8年間に捕獲されたアシカの総数は14,000頭に及んでいます。雄ばかりでなく、雌もその乳仔までもが狙撃の対象となり、それこそあつと言う間に壊滅状態となってしまいました。アシカが減るにつれて、それまでの猟法は改められ、動物園やサーカスへ売るための生け捕りへと転換されていったのです。

江戸時代にアシカは、江戸両国を初めとして、大阪や名古屋で「水豹」と称して見世物となっていました。見世物となるのは戦前まで続いたようですが、やがてニホンアシカは、見世物から動物園や水族館、サーカスへと引き継がれていきます。その供給源となったのが、竹島での生け捕りであったのです。田村氏の資料によれば、昭和8年以後、第二次大戦の勃発する昭和16年までの9年間に、少なくとも200頭がそのために捕獲されています。

瀧澤晃夫氏の労作『京都岡崎動物園の記録』によりますと、昭和10年に来園した雌には「リアンコ」と名付けられたとのこと。明治当時には、山陰地方の人々は鬱陵島を「竹島」と呼び、今日の竹島については欧米人の命名したリアンクールが訛って「リアンコ島」と俗称していたのが普通であったようですから、雌のアシカに付けられた「リアンコ」とは、生まれ故郷の竹島にちなんで付けられたにちがいありません。

天王寺動物園の70年史にも昭和9年に新聞社の後援を受けて職員が竹島へニホンアシカを捕獲に行ったことが記載されています。天王寺動物園ばかりでなく、昭和初期に関西方面の動物園や水族館で飼われたアシカの多くがニホンアシカであったと思われます。戦前に動物園等で飼育されたニホンアシカは終戦を境として大部分が死に絶えたものと思われます。野生のニホンアシカが減びたとすれば、それは1950年代のことであると私は考えています。当時の動物園や水族館関係者ばかりでなく、水産学者や動物学者の誰しもが、よもやニホンアシカが減びるとは考えてもいなかった、としか思えません。

ニホンアシカが人との関わりでどった歴史は悲しみに満ちています。見世物から動物園・水族館へ、そして戦後絶滅への道をたどる中で、誰からも顧みられることなく外国産のカリフォルニアアシカに置き換えられていったのです。

袋からこんにちは フクロネズミ目 コアラ科

昨年7月26日に生まれたコアラの赤ちゃんが、187日目の1月29日に袋から顔を出しました。長い袋の中での生活を終え、これから少しずつ外の世界を勉強しなければなりません。



チーター親子の悲劇

内山 晟 (動物写真家)

1991年12月、私はチーターの家族を撮る計画を立て、ケニアにあるマサイ・マラ動物保護区を訪れた。ここは、タンザニアのセレンゲティ国立公園に接する1,812km²の広大な保護区である。

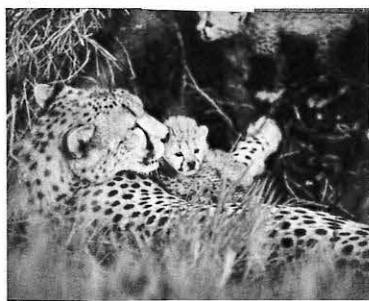
東 アフリカの雨季は、3、4、5月の大雨季と10月下旬から12月初旬までの小雨季に分かれる。雨季といっても、日本の梅雨のように一日中雨が降り続けるわけではない。夕方などにドサッとバケツをひっくりかえしたように降り、日中は、雲は多いものの、晴れ間は見え、陽は差しているのである。

普段、乾き切っているサバンナも、この頃は草が芽吹き、草食獣が子供を産む季節でもあるのだ。そしてまた、草食獣を食べる肉食獣も餌が豊富となるので、子供を産むことが多い。だから、チーターの親子に巡り会えるチャンスも多かろうと、私は出かけたのである。

チーターは時速100キロで走れることで有名だが、それは短距離選手としてであって、長距離を走ることにはできない。獲物を得るためには近くに忍び寄り、一気に走って倒さないと足の速い草食獣に逃げられてしまうことも多いのだ。彼らの好む生息地は、適当に身を隠すためのブッシュのある開けた所もいえる。

マサイ・マラ動物保護区を含めたこの周辺のサバンナは、正にチーターにとって最高の生活環境である。ところが、チーターと同じ肉食獣であるライオンにとっても、ここは狩りをしやすい場所でもあるのだ。たとえ広大な場所であっても、縄張り争いとなると、体の大きいライオンはチーターにとっては脅威的である。チーターがせつかく捕まえた獲物を横取りするだけでなく、時には命を奪うことすらあるからだ。

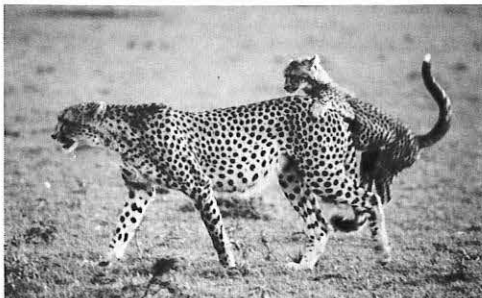
敵がいらないと思われるライオンに



とつても、天敵はいる。集団で襲ってくるハイエナを除くと、それは、面白いことに人間のマサイ族である。

かつて、マサイ族の青年は成人した証拠にライオンを殺した。遊牧民であるマサイ族にとって、牛を襲うライオンは生活を脅かす敵だったのである。今では、法律によってライオンを殺すことは出来ないが、未だにライオンはマサイ族を恐れている。しかし、チーターは彼等の牛を襲わないから、マサイ族とは比較的良好な関係にある。

この保護区の周辺にはまだ沢山のマサイ族が住んでいる。したがって、ライオンがあまりいない保護区の境目には、チーターが多く生息しているといわれる。



運転手兼ガイドのケニア人のヘンリーが情報を集めてきた。マサイ・マラの北西にチーターの家族がいて、それぞれが子供を持っているというのだ。

早速、車を走らせる。雨季が完全に終わっていないので、サバンナのあちこちはぬかっていた。時にはスリップしたり、タイヤがぬかるみにとられ、時には車を降りて押さなければならないこともしばしばあった。朝早くにロッジを出たものの、チーターはなかなか見つからなかった。住んでいるだいたいの場所は聞いてはいるものの地図があるわけでもなし、その上、子供が小さいうちは草むらや穴の中に隠し、あげく、数日おきに移動するからである。また、彼らの縄張りは広く、極端な事をいえば運動場を針1本を探すのに等しいのである。

3時間以上も経った頃、深い草むらの中からまだ目の開いていない体色の濃い子供をくわえて運び出しているチーターを見つけた。ネコ同様、首筋を軽く噛んで運ぶのであった。なぜ、隠し場所を変えるのかという、わたしの質問に答える代わりにヘンリーは、黙って車を動かし始めた。何かを目指しているかのような運転の仕方だった。しばらくして、前方に小さく小さくライオンが見えた。ヘンリーのみならずガイドをやっているケニア人の目は素晴らしく良い。双眼鏡がなければ確認できないような遠いところにいる動物も彼らは簡単に捜しだす。視力は5.0位あるのではないかとと思われる程なのだ。

ライオンとちがってグループで生活せず、母親だけで子育てするチーターにとって、ライオンが近くにいるということは非常に危険なことだ

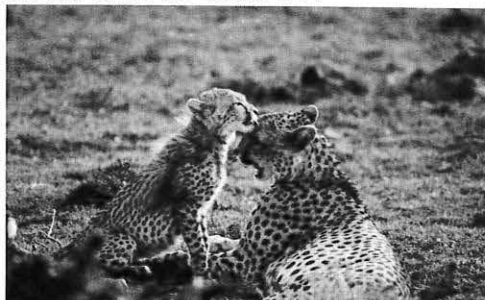
ろうと思われる。

チーターは1度に1頭から8頭、平均3頭産み、そのうち生き延びて大人になるのは1/3くらいだという。病気で死ぬものもいるだろうが、中にはライオンやハイエナに殺されてしまうものも多いのだ。

目が開いていない子供は生後1週間も経っていないのだろう。小さすぎて、ブッシュに隠されてしまうとまったく姿は見えなくなってしまった。

翌日、生後4、5週間の子供を5匹持ったチーターがいるという情報を、またまたヘンリーが持ってきた。ガイド仲間で情報を交換しているのだ。

再びチーター探しが始まった。午前中は空振りに終わった。朝夕は涼しいものの、10時を過ぎると暑くなり、ほとんどの動物がグッタリしているように見えた。こんな時には、チーターもどこかの茂みの陰で休んでいるのだろう。



夕方、またまた、ヘンリーのずば抜けた視力によって一頭のチーターを見つけた。子供は連れていない。しかし、良く張った乳房で子連れと知れ、後をつける。チーターの母親は、数十メートル毎に立ち止まり、周囲を見て何かを警戒する素振りが見られた。

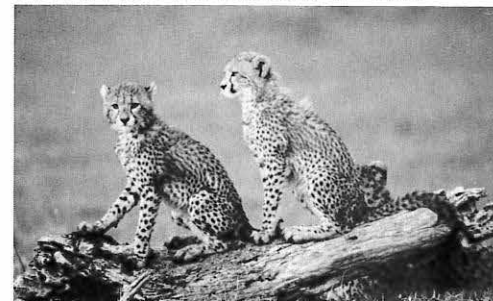
1キロも歩いたろうか、大雨季には川になるのであろう、大きな溝の中に飛び下りた。すると、ヨチヨチ歩きのチーターの子供達が草むらから姿を現したのである。この場所は、何度も車を走らせた所である。ぬかりなく、あの驚異の視力を持ったヘンリーと探したのに見つからなかったということは、母親が帰って来るまでいかに巧みに身を隠していたかということであろう。だれに教わることもなく彼らは本能的にブッシュの中で親が帰ってくるまで身を隠している必要性を知っているのだろう。

横になった母親に群がると、子供達は乳房に争って武者ぶりついていった。5匹だ。我々が1日ばかりで探しまわっていたチーターの家族がようやく捜し出せたのである。

乳を飲んでいる姿も、飲み終わった後母親にまつわりついて遊んでいる姿も、まだヨタヨタしてあどけなく、とてつもなく可愛かった。やっと動けるようになったかのように、頼りなかった。見ていて飽きることはなかったが、日が傾くにつれ、厚い雨雲が現れてきた。ヘンリーは雨を心配していた。豪雨が降ると、道がぬかり走れなくなるの

だ。それこそ、宿に帰れなくなってしまう。

決断を迫られた私は撮影をあきらめ、翌日、日の出る前に、ここにやってくることにした。こんなに小さくては、そんなに遠くに移動してしまうことはないだろうと判断したからである。



翌朝、真っ暗なうちに車を出して、日の出と同時間くらいに昨日チーターがいた場所にたどりついた。溝の中に母親が横になっていた。子育てに疲れきってグッスリ眠っているように思われた。起きるまで待とう、と車を止めてエンジンを切った。

十数分経っても、母親は動きもしなかった。異変を感じて、ヘンリーが車を動かした。

ギャッ! 本当に私はこう叫んだと今でも信じているぐらいにショックを受けた。

彼の指差す先に、点々と5匹の子供の死体が横たわっていたのだ。残酷なことに、その内の1頭は下半身がなかった。全身に悪感が走った。吐き気さえ覚えた。双眼鏡で母親を見ていたヘンリーが呟いた「母親も重体だ。首筋を噛まれている、ライオンにやられたのだろう」

昨夜、この目で見たあの愛らしい家族全員が殺されてしまうなんて、いくら弱肉強食の野生の世界とはいえ信じられなかった。

今まで、チーターやライオンなどがインパラやシマウマを襲って食べているのを見ても別段残酷とは思わなかった。動物は「生きるために殺すのであって、殺すために殺すのではない」と思っていたからである。そんな事をするのは、戦争と言う名のもとに殺し合いをする人間だけだろうと信じていた私は、ライオンが殺したと聞いて、頭が空白になるのを感じた。そして、翌日、母親も死んだと聞いた。

数日、ショックでボケーツとしていた私は3頭の子連れのチーターがいると聞き込んだ。気を取り直してまたまた探しに走った。幸いな事に、観光客が頻繁に来る所だったので、あちこち聞き込むことで目指すチーターは簡単に見つかった。3か月は経った大ききいたずら盛りの子供達だった。はしゃぎまくったかと思うと、コトンと眠りこけてしまうという風だった。

そんな彼らを見ていると、3頭とも何ごともなく大人になって欲しいと、心から思わずにいらなかった。

春になればキジ舎は…

樹木は芽を吹き、水がぬるんで気温もグンと上昇してくると、いよいよ動物達が繁殖をむかえるシーズンとなります。

私達の身のまわりでもすでに前兆は見られますが、皆さんはそれがわかりますか？

たとえば、雀などはわらをくわえて巣穴へ運びかけていたり、鶯は「ホーホケキョ」とまではいかなくとも「ケキョ」ぐらいまでは鳴ける様にはなっていますし、蠅や蚊、そして蜘蛛や蜚蠊（ゴキブリ）も気温の上昇に敏感に反応して動き出しています。そんな中でも当園のキジ舎の鳥達も活発な行動をしはじめていますので、キジ舎の鳥達を少し紹介したいと思います。

キジ舎一番のオシャレなマクジャク

クジャクと言えばもう誰もが知っていると思いますが、普通一般に「クジャク」と呼ばれているのはインドクジャクです。



マクジャクのディスプレイ

現在キジ舎で飼育しているのはマクジャクで、インドクジャクとは色合いが少し異なります。そして何より冠羽にはっきりと形の違いが表わられています。

ちなみにマクジャクはキジ舎、インドクジャクはカモシカ園で飼育していますので、どうか調べてみるのもいいでしょう。

マクジャクの繁殖期は、5月～8月ぐらいまでで、昨年は親子の姿をお見せすることができませんでしたが、今年は親子仲むつまじい姿をお見せできる様に頑張ります。そろそろ羽を広げている時間が長くなってきていますので、皆さんにも一番オシャレで、トレンドィーな姿を見せる機

会も多くなることと思います。よく質問されるのが「クジャクが羽を広げるのは何時ですか？」と聞かれるのですが、5～6月ならやはり午前中に良く広げています。8月にはいるとききれいな部分はすべて脱け落ちますので夏までには見に来られるのが良いと思います。開けマメ～!!と言っても広げてくれません。チャンチャン!!

私は国鳥のニホンキジ

♪～も～もたろさん、ももたろさん…でおなじみの桃太郎と一緒に鬼退治におもしたのが、このニホンキジです。ニホンキジは日本の国鳥として指定されてはいるものの狩猟鳥獣の中に含まれていて、冬の間はハンター達の格好の標的となっています。野生ではオスは、春になるとテリトリーを持ちそのテリトリー内を通過するメスに対してディスプレイをしたり、交尾をしたりしています。ですからメスは複数のオスのテリトリーを自由に行き来できるのです。それがたとえばメスが2羽であっても子供連れであってもです。非常にオス達に大切にされているのがわかります。しかし交尾に関しては突発的に行われているこ



日本の国鳥であるニホンキジ

とがわかっています。

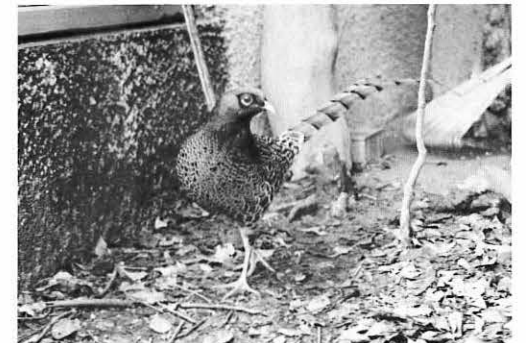
繁殖期は4～7月ぐらいまででオスの顔面は真赤な部分を広げてメスへアピールします。

日本の特産ヤマドリ

ヤマドリといわれるだけにそう簡単には人の目につかない山の中に生息しています。そのためヤマドリは世界中で日本にしかない特産種なのですが、意外と知らない人が多いようです。

このヤマドリには亜種があり、キタヤマドリ、アカヤマドリ、ウスアカヤマドリ、シコクヤマドリ、コシジロヤマドリと5亜種に分類されています。キジ舎で飼育しているのはキタヤマドリという亜種です。ヤマドリのオスはめったに鳴きません。そのかわりに「ドラミング」といわれる羽ばたきを行ないます。山奥の夜明け後に山中から「パバババッ、パババッ」と耳に風圧を感じさせるぐらいの音を聞くことがあれば、それは近くにヤマドリがいるということですが、姿を見るためには、やはり少人数か、単独で山に行かれるのがよいでしょう。私も山の中で聞きましたが、すごい音でした。キジ舎でも数回聞きましたが、皆さんが聞こうと思えばやはり午前中に来られた方が確率は高いでしょう。しかし、そう簡単には聞けないでしょう。

繁殖期は4～6月ぐらいで、ニホンキジと同じように、顔面の赤い部分が広がります。キジ舎のヤマドリもそろそろ顔の赤い部分が大きくなりはじめ、メスに対してのオスの特徴をアピールする度合も高まってきています。それに対してメ



日本特産のヤマドリ

スが反応し始めると、いよいよ交尾し、産卵へと突入していきます。

私はニワトリではない

キジ舎内で一風変わった鳥がいます。それはヤブツカツクリ。オスが造った産卵用の枯葉や土、小枝を積み上げた直径5～8メートル程の塚に、メスが産卵します。その後はオスが塚の卵を見張ったり、温度を調節したりとまったく変わった鳥なのですが、この鳥、動物園を訪れた子供達には、ニワトリあつかいしかされていません。体色は黒が基本で、頭部は赤、のどには多少の黄色と、ニワトリと間違われ困っているようです。

塚の中は腐葉土となっていて、その発酵熱で卵を温めます。オスは塚を盛り上げたり、くずしたりして31℃～33℃にいつも保っているのです。メスとはいうと、繁殖期に交尾・産卵をするために塚に近づき、産卵を終えると、サッサとその場をたち去るのです。

卵は43～55日でフ化し、自分の力で塚の上まであがり、すぐ森の中へ走り去りもう1人(1羽)で生活していくのです。まさにワイルドだねー。



大きな塚を造るヤブツカツクリ(左がオス)

繁殖期は5～8月ぐらいで、オスはのどの黄色い部分をふくらませ「ボーボー」と鳴きます。決して「コケッコ」でも「クックドウドルドゥー」でもありませんので、よろしく。

笑ってごまかずワライカワセミ

「クックカカカココカコロロー」さて何でしょう。クロスワードパズルの答えではありません。



大きな鳴き声のワライカワセミ

嫌いな物は何でしょう。それは、私(飼育担当者)です。どうもオスの方は私が一番嫌いなようです。キジ舎を担当するようになって4年目ですがまったく心を開こうとはしてくれません。私も出血がたえませんが彼はその後もただただ笑ってごまかしてばかりです。

このページを皆さんが読まれる頃には、動物達は最高潮に達していることでしょうか、皆さんも動物園にいらっしやって、躍動する動物たちを見て少し感動してみませんか？

(飼育課：西田俊広)



イヌワシ(全長80~90cm)
ヨーロッパ、アジア、北アメリカの開けた場所のある山岳地帯に主として生息しています。日本を代表する大型のワシで本州、九州、四国に一年中いますが数は少なくなっています。



ソウゲンワシ(全長65~80cm)
中央アジアからモンゴルにかけて生息し冬にインドに渡るイヌワシの仲間です。



オオタカ(全長50~60cm)
北半球のほとんど全域に生息し、日本でもほとんどが留鳥です。昔からタカ狩りによく使われていました。



サシバ(全長約40cm)
4月頃日本へ飛来、丘陵や山地で繁殖して、9月~10月頃に大群で東南アジアへ飛び去っていきます。

グラフZOO

猛禽類

ひとくちに鳥といっても種々あります。哺乳動物にトラやクマ、オオカミなど肉食のいわゆる猛獣がいるように鳥類にも肉食の猛禽がいます。それらは一様にすどいツメとクチバシを持っており、動物の肉をひき裂いて食べます。当園の猛禽類を紹介しましょう。
(撮影：吉本昌俊)



クマタカ(全長70~80cm)
日本、中国南部、東南アジアの森林に生息し、日本を代表する大型のタカの1つです。生息地により多くの亜種があります。



オジロワシ(全長80~90cm)
北海道で少数が繁殖している大型のワシで、特殊鳥類に指定され、保護が進められています。名前の由来のとおり尾だけが白色です。



ウオクイワシ(全長60~70cm)
インド北部から東南アジアにかけて湖、河川、海岸一帯に生息し、名前のとおり魚を主食にしています。



カラカラ(全長50~60cm)
北アメリカ南部から中南米の開けた場所に生息するハヤブサの仲間です。ほとんど地上で生活しています。

シュバシコウ(ヨ-ロッパコウトリ)の巣作りをしますから、見にきなさい。といわれて鳥の楽園(バードケージ)へいきました。毎年2月には樹の上にある巣に新しい柳の小枝を入れてやるそうです。

城北公園の柳を使うんだって……

まかしとき……

マイホーム早くほしい

巣作りの日は2月17日ですが、その1週間前に係の人たちが巣の中へ入れる柳の枝を適当な長さにととのえる作業がありました。

小枝の太めのところは巣の下に敷く。

小枝の先の細いところは50cmくらいに切って、10cmくらいの厚さに敷く。

剪定された小枝は次々と束にされて準備完了……

さて、巣作りの日

鳥の楽園の中には45羽のシュバシコウがいます。巣作りをしてやると、5月には可愛いヒナが産れることになるでしょう。1つの巣に4個～5個の卵を産むといえます。作業は係の人が10人ほどでやるので30分で終わりました。

鳥の楽園

この上に柳の小枝を敷いてやる

鳥の楽園

中には7～8本の擬木が立っています。巣は20ヶ所あります。

1つの木に2つくらい巣がある

巣の高さは8メートルから3メートル

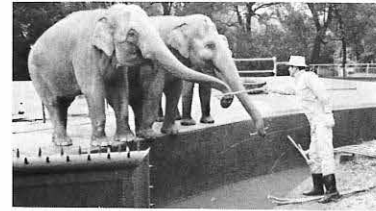
柳の巣材をつり上げる

春がきたね

作業中、ほかの鳥たちも落ちつかない様子でしたが、巣ができて帰宅したシュバシコウがうれしそうにカタカタとくちはしをならすのを見上げて、ホッとしました。

2/2. サル類の駆虫を行いました。
2/3. タンチョウを1ペア、秋田市大森山動物園に送りました。

2月4日 サトウキビ 200kg が、徳之島観光連盟



飼育係員から大好物のサトウキビをもらうゾウたち

から、当園のゾウ3頭にプレゼントされました。
アカカンガルーが交尾しました。
2/5. ヒョウが交尾しました。
2/6. 1月31日に生まれたジャガーの赤ちゃんは、人工哺育で順調に育っています。
2/7. タンチョウを1羽、東武動物公園に貸し出しました。
アオサギが交尾しました。
オウサマペンギンが産卵しました。
昨年の11月に保護したオナガを東武動物公園の方に依頼し、関東地方で放鳥してもらいました。

2月8日 ブラックバックのオスの子が生まれました。



ブラックバックの赤ちゃんが、今年1月から2月にかけて続々と生まれました。

2/9. コアラの赤ちゃんが、親の袋から出ました。
2/10. 1月に保護したシロハラを放鳥しました。日本モンキーセンターの3名の職員の方々が来園見学されました。
2/11. コミズクを1羽保護しました。
2/12. 豊橋市動物園の飼育係の方が、当園にて3日間の飼育研修に入りました。
2/14. ホッキョクグマが交尾しました。“鳥の楽園(バードケージ)”で、カワウが営巣しはじめました。
2/15. マントヒヒのオスの赤ちゃんが生まれました。

2月16日 “鳥の楽園”で、バードウォッチングを開催しました。



入園者の皆さんにじっくりと鳥を見てもらおうと、係員の説明でウォッチング。

2月17日 “鳥の楽園”で、シュバシコウのための巣材上げを実施しました。

2/20. ダチョウが今年初めて産卵しました。

今月もおもしろ情報満載



2/21. ホシハジロのオスを1羽保護しました。以前からいたナベヅルのメス2羽と、多摩動物園からお借りしたオス1羽とを、同居させました。
2/22. カワウが今年初めて産卵しましたが、残念ながらカワウ自身が割ってしまいました。



係員がシュバシコウたちの巣台の上に登って作業

ワシントン条約締約国会議が、3月2日から2週間にわたり京都市にて開催されるのを機に、京都市動物園で開催される“身近に知ろうワシントン条約”特別展に展示する剥製を貸し出しました。
2/25. タンチョウの亜種の有無をDNAで確認するため、4羽について採血を実施しました。
2/27. このところ、“鳥の楽園”では、シュバシコウの交尾を頻繁に確認しています。

2月28日 平成3年度 近畿ブロック飼育係研修会が、当園で開催されました。



近畿ブロック飼育係研修会の研究発表風景

ジャングルキャットの出産が予想されるため、この日からメスを産室に入れることにしました。

- ☆テレホンサービス：771-9999
- ☆お知らせ
- 動物のお話とスライドの会 “小鳥のお話”
日時：4月19日(日)、午後1時～2時
場所：レクチャールーム
 - 春の動物と花のフェスティバル'92
日時：4月19日(日)～5月5日(祝)
 - コアラの赤ちゃん名前募集：4月1日(水)～4月30日(木)

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光/監修
B5変型判・オールカラー
定価600円

動物園で暮らす様々な生き物達、
自然の中ではどんな暮らしをして
いるのか？ 動物園での世話
の仕方は？ 仲間とは？ など、
写真と精密イラストをまじえ紹
介します。

くらしとかいかたシリーズ<既刊本>
B5変型判・オールカラー・各定価580円

むしくらしとかいかた

野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきものくらしとかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

室内装飾設計施工・バラエティ雑貨卸

1st ファースト商会

〒559 大阪市住之江区平林南1丁目2番57号
ヘッドビル202号
TEL 06-686-4033 FAX 06-686-4032

オートフォーカスカメラに

フジカラー SUPER HIG 400



ピントが合いやすいフィルムです

かろうの大林

桜橋本店 ☎341-8091
阪急三番街店 ☎372-5031
OHVAC店
(ギャレ大阪) ☎346-7606

全国の愛犬家の共感を呼ぶ無比の愛犬歌集

絶賛四版

歌集 犬の歌

平岩米吉著

著者が、約四十年の間に、共に暮らした七十余頭の犬の生と死
を歌った四百十九首を収録。同時に、その誕生より老齢に至る
写真四十七図を収めた、犬の一生の生態写真集でもある。

天金・美装箱入
B 6判・270頁
3000円・〒不要

《感動の言葉》

- ☆ この歌は愛犬と異体同心の境地である。(英文学者)
- ☆ 人として注ぎ得る愛情の極致を示している。(動物研究者)
- ☆ 一首ごとに、ことごとく魂にひびく歌です。(動物愛護家)

●本書は、書店ではお買い
求めになれません。
直接当会へお申し込みく
ださい。

〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 動物文学会 電話(03)717-1659/振替・東京5-9800

新作

貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」
19分(10本常備)

天王寺動物園の本

入園の記念・手引に……

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料480円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキで
お申込下さい。



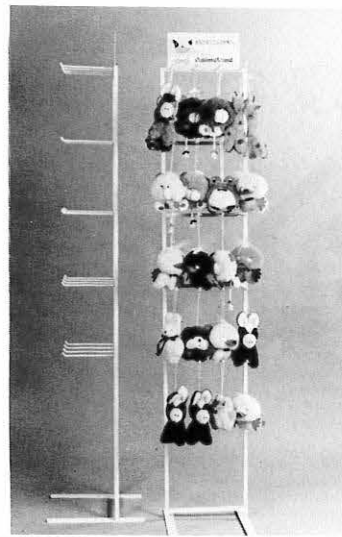
コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800(50度用)

オールカラー

500円

園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

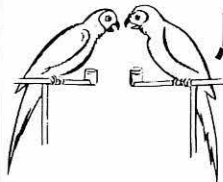


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

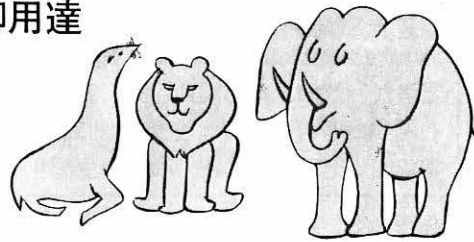
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL: (06) 704-8580
FAX: (06) 704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

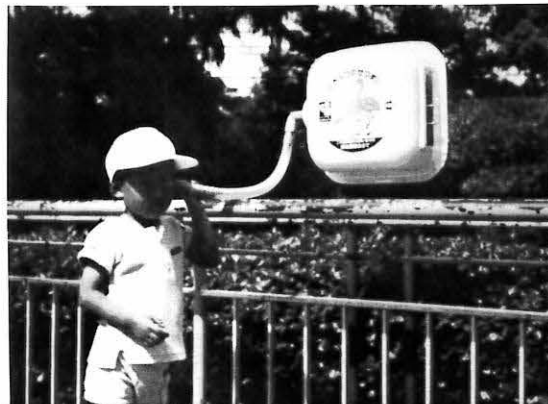


有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、 ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数カ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、 ご休憩は

動物園内.....

中央売店

TEL 06-771-0973



お食事・飲み物・おみやげ

 動物園内 **南園売店** TEL 06-771-7110

園内での写真は... 動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますので説明
に伺いました際は、
よろしくお願ひ致し
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444



雪印

Our Yogurt has fruity
and rich texture!!



新発売

ほりたてミルクのおいしさが、生きている。

雪印
オガル

希望小売価格 130g/各120円 250g/各220円(税別)



“生イキヨーグル”と
覚えてね。

HIJIRI-KOJIMA

一日
愉快地
たのしめる!!



◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。

久竹娛樂株式会社
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ 1992年4月10日発行(毎月10日発行)第28号 第4号 (通巻320号)

編集/大阪市天王寺動物園事務所

発行人/大阪市天王寺動物園協会 土井良彦

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共) 振替口座 大阪3-3 7 8 2 3

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06) 7 7 1 - 0 2 0 1

編集委員 (中山良三郎/村上 昭/中尾啓一/樽本 勲/中川哲男/吉本昌俊/山根和弘/大谷直樹/宮下 実/長瀬健二郎/榎原安昭/森本委利/竹田正人/永田健一/前田 茂/大野尊信/野口秀高/早川 篤/赤松 建/大川光雄/土谷正道/山元貞幸)